

掛川市立総合病院・看護部教育委員会

nurse cap ナースキャップ

教育だより
No.36

平成15年4月20日

看護支援
システム

平成15年2月1日導入

Nurse ナース
Information and
 インフォメーション アンド
Communication
 コミュニケーション
Engineering system
 エンジニアリング システム



ベッドサイドで入力



話室で入力

看護支援システムがいよいよスタートしました。看護部ではこれまでさまざまな業務改善にとり組んできました。導入目的は①看護業務における帳票類の作成等の事務作業の円滑化を図ること、②患者の情報管理、重複記録の解消、病床管理、勤務表作成、各部署の日誌等看護管理業務の合理化を図ること、③オーダリングシステムからの情報を迅速に収集し看護業務に役立てること等です。患者様の情報を総合的にみることができ、このシステムを使いこなす質の高い看護の提供につながっていくことを期待しています。

看護部長 神谷 郁子



部長室にて

基礎Ⅰ

宿泊研修後の
自分を振り返る

5西 片桐 弥生

基礎Ⅰ研修の中で、宿泊研修がありました。研修は、事前に看護の一面をプロセスレコードにとり、その時の患者様の気持ち・自分の気持ちを考える。また、入職してからの自分を振り返り、同期の仲間と話し合い、気持ちを伝え合うこととお互いを知る、という目的で行われました。

プロセスレコードは、全員で発表し合いました。一人で振り返っただけでなく、一人一人がその場面での患者様の立場となって考え、意見を話し合いました。自分がとった患者様との関わりが、どのように影響を与えたのか、またもつと他の対応の仕方がよかったのではないかなど、様々な意見を頂きました。違う方向から振り返り、考えることができました。

じっくりと自分を振り返り、同期の仲間と話し合った二日間は、とても充実したものとなりました。上手くないことがあったり、ミスをしてしまったことがあると、一人で

は考えこんでしまい落ち込む一方で、同期の仲間と考えたり話し合う機会があると、お互いに励まされ、元気づけられます。仲間や先輩、そして研修は、本当になくはならないものだと思います。



実習風景

固定チームナーシング部署別研修

2/ 12・13

杉野元子先生をお招きして

外来 佐々木和美

外来は、二年間のデータ収集後、本年度より固定チームナーシングを導入しました。スタッフ72名という大集団のため、4チーム・13グループで取り組みました。当初は外来でできるだろうかと不安をもつスタッフもおりましたが、リーダーを中心に月一回のリーダー会・チーム会、

月二回のグループカンファレンスを行い、外来看護について考え意見交換を重ねてきました。その結果、お互いが他科の情報を共有し理解することにより、自科の問題も明らかに、スタッフの看護に対する関心が高まりました。

一年間全員で取り組んだ報告書を提出後、杉野先生から活動内容についてのアドバイスを受けました。「すばらしいこの努力、言うことなし！すごいですね」とのコメントを頂き、とても嬉しかったです。「超忙しく、超集まりにくい条件の皆様がこれだけカンファレンス

スしておられるのに感心します。小泉首相に代って杉野が叫びます。感動した！」とメッセージカードも頂きました。

外来に異動して一年、無我夢中で頑張ってきました。スタッフの皆様協力に感謝します。次年度も頑張ろう！よろしく。



外来の皆さん

ちよつとホツとするはなし

一年中楽しめるボード

2西 久保田真弓

五月〜十月まではウエイクボード、十二月〜三月まではスノーボードと、一年中ボードを楽しんでいます。(ウエイクボード：水上スキーのようなもので、板が一枚になって滑るスポーツ。)

ウエイクやスノーボードは、TVやビデオ・雑誌などを見て興味を示し、また友達からの誘いもあって始めたのがきっかけでした。



スノーボード
中央が私



ウエイクボード一式

前者は今年で五年、後者は八年目となり、経験年数は多いものの技術はそれに伴っていないか？

両者の魅力とは、何と言っても広い水面や雪面を滑っている時の開放感!! その時はやはり、嫌なことも何もかも全て忘れ、頭の中を真っ白に日常から離れるという意味で、とても良い気分転換となります。

運動量は、これもかなりハードで、翌日は全身筋肉痛が当たり前。特にウエイクの後は握力がなくなり、血圧計のマンシエットを握るのに精一杯です。

今年の目標は、ウエイクではツーウエイキジャンプ(二つの引き波を一気に飛び越す)を確実にできるように。スノーボードでは、雪面を深く切り裂くように加速していくカービングターンを身に付けたいと思います。みなさんも是非、いろいろなスポーツにチャレンジしてみてくださいね。

トピックス

ボランティア

「寒梅」の皆様
長い間ありがとうございました

二十一年という長きに渡り「ガーゼたたみ」「お茶の袋つめ」「総合案内」など、地道に活動された「寒梅」の皆様が三月三十一日をもって解散されました。感謝の一語に尽きます。

NICE導入について

(株) S B S 情報システム
松永 一孝

稼働から1月半が経過しましたが、1ヶ月のテスト稼働期間や皆さんの操作練習のおかげもあり、順調な滑り出しと云えると思います。導入当初はデータ変換・プリンタ関連の問い合わせが多々寄せられました。が、病棟毎の勉強会により最近はその操作方法に関する質問はほとんど無くなりました。この様に看護部としてのシステム導入における取り組みや目的が明確であったことが「スムーズな稼働」に繋がっていると思います。

最後に紙面をお借りしまして、NICE開発・導入にあたり御協力して頂いた院内の皆様へ御礼申し上げます。



3月6日 懇親会

ありがとうございました！
どうぞお元気でお過ごし下さい。

編集後記

年3回を目標に新聞を発行しています。何を載せようか委員で額を寄せ合わせ考えていると、一年はあっという間に過ぎ、季節はもう春です。去る人、迎える人、人事異動で人が動き、別れに涙し、新しい出会いに喜びを感じます。今年度も皆さんに楽しんでいただける新聞を目指します。よろしくね。

松下

私の参加した研修

4 西 石田 佳子

看護教員養成講習会を受講して

私と大石さんは8ヶ月間研修を受講した。この研修は、静岡県看護の充実強化と資質の向上を目的としている。講習内容は、看護師としてのものの見方、考え方を広めるための内容、看護教育学に関する内容、看護の対象を理解するための内容を基礎として幅広い学習を行った。「自分が実践している看護を自分の言葉で次の世代に継承できる」ことを目指して研修を受けた。



研修を通して、常に「自分を知らず、自分と向き合うこと」を続けよう。学びあうことができた。特にグループワークでは、年齢、経験、環境の違いがある仲間が集まり、価値の置き方、最終判断の仕方、仕事の処理の仕方などに違いがある。この違いが、お互いの考えを深め、広がることにつながった。また、ある講師の先生の話の中で、女性の発達課題として、最近では30代から50代はアイデンティティーの再構築の年代であること、をうかがい、学習に対して自信が持てた。また、講習会を通して施設外の看護に携わる人たちと出会い、大きな財産を作ることができた。

研修の中で、大きな壁に繰り返し繰り返し返しつづかった。そのときになぜか頭の中に浮かぶのが、同僚の笑顔である。ころよく研修に送り出していただいたみんなの顔が浮かんで来て、励まされ、自分が生かされているのを感じた。研修で学んだことを今後実践の中で伝えて行きたい。

平成15年度 各部署看護目標

5階東

- ①クリティカルパスを作成し、看護活動に生かす。
- ②受け持ち患者に関わり、責任を持つ。

2階西

- ①気持ちの良い関わりを心がけ、安心できる看護を提供する。
- ②業務整理を行い、医療事故防止に努める。

2階東

看護計画の提供に責任を持つ。

5階西

早期離床を図り、退院に向けて安全な看護を提供しよう。

3階東

チームでの取り組みをまとめよう。

腎センター

- ①チーム会活動ができる。
- ②安全な透析ができる方策を考える。

4階東

看護支援システムを活用することにより、患者様が満足した入院生活を送ることができる。

3階西

根拠を考へて行動する。

外来

- ①看護の振り返りができる記録に取り組む。
- ②所属意識を無くした応援体制を考える。

4階西

- ①各チームでクリティカルパスの活用の仕方を検討する。
- ②クリティカルパスについて出された各チームの運用を病棟で統一させていく。

手術中材室

固定チーム活動が充実する。

